

大和の隣組

五月號

昭和十二年四月二十二日印刷
昭和十二年五月一日發行

定價 一部 金貳圓

發行所 秀雄 人
奈良市高野町石町

編輯人 岡田 大郎
奈良市中市一丁目番地

印刷所 奈良 明新社
奈良市本町三十三番地

發行所 奈良 縣政務部
地方課 奈良縣廳内

奈良市大町明野區

五月の常會徹底事項

一、「職域敢闘」に就て

今こそ、國運を決すべき本土決戦の秋だ。前線特攻の成果を持続し戦勝の扉を開く力は、今日此の一瞬の職域敢闘にある。食糧を作らう、兵器を造らう我々の力を最高度に發揮しよう。

もう一度隣組全體を見廻して、皆が皆全力を盡して御國のために働けるやうにしようではないか。

二、「戦ふための疎開」に就て

疎開は戦ふための、断じて逃避であつてはならない。疎開者はもとより戦災者も疎開地に於て一刻も早く生産勞務の戦闘配置に就かう。そして要殘留者も亦其の家族の中の老幼弱者等を早く疎開させて已が職務に専心しよう。

地方の受入れ側は戦友愛によつて疎開者の日常生活の援護に當ると共に、これ等の人々が積極的に生産勞務の戦列に挺身出来るやう更に工夫を廻らさう

三、「甘藷と麥の増産」に就て

航空機、戦車等の液體燃料と戦時食糧の確保とのため今年には甘藷の大増産を是が非でもやり遂げねばならぬ。

甘藷の増産には良い苗を適期（大體大麥の成熟前十日位）をのがさず植付けることが絶対の要件だ、また、麥の病虫害を徹底的に防除して麥増産に最後の頑張りを發揮しよう。

やらう

甘藷の大増産

戦災者・疎開者を迎へて

過般敵機空爆に依る大阪市の罹災者中本縣に避難して参りましたもの（有縁故、無縁故）に對する救恤に付きましては直に戦時災害保護法の發動を致しますと共に防空法による本縣防空業務計畫に基きまして應急措置を講じたのであります。がそれ以前より又その以後にも本縣への疎開者は相當數ありますのでこれ等人々に對する受入れに付て萬全の方途を講じ遺憾無きを期したいと存じます。

受入れ側町村及び部落、隣組等に於ては滿腔の同情と肉身愛を以て之を迎へ相共に手をこたへず雄々しく戰場生活を營んでゆかれることを御願ひ致します。

避難或は疎開して來られました方々に於ては心置きなく親愛の心を以て受入地へ赴かれらるゝ同時に戦災による不幸身邊の變化や不自由なごに力落すことなく愈々敵米英に對する闘魂を發揮され各々の戦域に於て奮に倍する敢闘振りを見せられると同時に地元部落生活との融和を旨とし過去の都會生活をそのまゝ露出して地元の人情、風俗、習慣と相刻するが如きことななく健實な部落の戦時生活を愈々強固ならしむるやう特に注意されんことを希望致します。

工場防謀強化に就て

謀略の手のこ手

敵米英の謀略的魔手は迫つてゐる

しかし構へる信念のあるところ

謀略断じて恐るゝに足らず

敵米鬼(機)の空襲が日にくゝあくさを加へて來ま

した。そしてこのごろでは焼夷弾や爆弾だけでなく萬年筆や、シャープや、コロレットの様な型をしたものに爆薬を仕込んで落すやうなものがあつたりして子供な

さが拾つて蓋をこつたり、踏みつけた途端に、破裂して負傷をしたり、一命を落すこともあり、また食糧の不足を狙つて、細菌や毒薬入りの菓子類などを、投下せないとも限りません。

宣傳ビラは、既に近距離に撒布した事例もあり、神經戰を狙つてゐます。最近まかれた宣傳ビラの内容を見ます。

今度の戰爭は、軍人が政府のある指導者が勝手にはじめたことだ。軍官民の間の處遇に差別がある。政府や、軍部を殊更に非難する。國內の矯激な思想運動を煽動する。

軍官民の離間や、國內の相剋を圖つたり、敗戦や厭戰的思想を醸成したり、和平思想の擡頭を企圖した、敵側の謀略の魔手に外ありませんから、充分警戒しなければなりません。

また偽造紙幣や、偽造衣料切符をばらまいて、國內の經濟攪亂を狙ふといった様な手も豫想されますが、お五日本人はそんな場合に遭遇しても神經を太くもつて、これ等の謀略の手を撃擯しなければなりません。

去る三月十日内務省令をもつて、敵機から投下されたり、撒布された、以上申上りました様な物を拾つた場合、すぐ巡査や憲兵に届出なければならぬことになつたことも、不用意の間に敵の謀略に乗つたり、危険があつてはならないからであります。皆さんの積極的な協力を望みます。

例事のーリタイ

敵米英が北アフリカに基地を得てから伊本土空襲が可能なるや先づ行つたのが謀略戰である。

「伊國民よ、ムツソリニーの野心の犠牲になるな」この簡單なラジオの呼びかけ、ビラの雨を降してもドイツの屬國になつてしまふのだぞ」「ドイツの腐れ縁を速かに切れ、さうすれば諸君を敵さしない」等々、ム首相以下の戰爭指導者一般國民の分離背反をねらつて數十萬枚の紙彈を繰り返し、繰り返しバラ撒いた、第二のねらひは、食糧不足と生活不安につけ込んだもので、「戰爭が續く限りイタリーの食糧状態は益々悪くなるぞ」「お前たちは黒パンも喰べられないのに、吾々は美味いものを腹いっぱい喰べてゐるのだぞ」「銃を棄てさへすれば、平和な生活の中に、幾らでも喰へるよ

うにしてやる」この手の手で甘言の限りを印刷して撒き散らした、第三にはイタリーと米英の生産力の差を馬鹿々々しく誇張した統計表などを織り込んで「いくら瘦せ我慢してもお前達ちは勝てないのだぞ」「この脅し文句を、無差別爆撃を併行してバラ撒き、「これでもかこれでもか」を脅しつけた。これがイタリーの弱點に喰ひ入り遂に

バドリオの祖國裏切りになつたのである。然も紙の爆彈で約束された物質的の不自由なき平和生活が、果してイタリー國民に與へられたであらうか、今、米英占領下のイタリーに在るものは、全國的失業、饑餓、賣淫、犯罪の四ツのみだ。男子は殆ん

でも日給は三十リラで、一回の朝食は五百リラだ、未婚も既婚も、せつば詰つた婦女は最後のものを投げ出し、米英の占領軍それも殖民地土人兵なごの餌食に自らを提供してゐる。紙の爆彈を信すれば白パンが喰へる筈であつたのが、現實は野草さへ喰ひ盡くして、赤ん坊の半數は榮養不足で死に、出産兒の九割以上が産聲をあける力さへない

ミ外電は傳へる。指導層一般國民の分離の結果は、米英の手先き等が入り亂れ、互ひに反對派を銃殺し合ひ、又死刑に報ゆるに大量死刑をもつてするなご今や國家有能の材は跡を絶たんとし、匪賊、強盜、追刺ぎの横行、正に地獄圖繪である。而して、紙の爆彈で色々約束した米英は「あれは無條件降伏させるまでの手さ」「嘲笑しつゝ、骨の髄までしやぶり抜かうとして

る。イタリーで味を占めた敵はドイツに對しても、ハンブルグ爆撃の寫真に「お前たちの次ぎの運命はこれだぞ」を書いたりして、北佛上陸直前には數十萬ポンドの紙彈をバラ撒いた。然し二十七年前に苦杯を嘗め、イタリーの實例を目の前に見た盟邦ドイツ國民は、そんな見えすいた手は一笑に附して、祖國防衛に根こそぎ蹴起してゐる。我國に對しても、紙の爆彈を今日にも降らせやうと焦つてゐることは想像に難くない。國內不平、敗戦思想、國內の對立、軍民の離間をねらふ定石の外に、にせの百圓札、にせの衣料切符、にせの新聞號外、殺人キヤラメル病菌入り煙草、にせの債券當籤番號等々、謀略の達人にして自惚れるアングロが、そんな珍奇な手でやつて來るか、更らにラヂオによる國內攪亂策も、敵の基地が近づいた今日、當然考へられる。だが、國民の心構へ一つでそんなものはなんでもない

これこそ資材も何も要らぬ、イタリーの實例一つをはつきり考へるこゝでだけでも敵のそんな手は笑つて済ましてゐられるのだ。

隱退藏物資戰力化推進期間

自 三月 一日
至 五月 三十一日